



■ 地域医療機関との役割分担を進め急性期機能を強化

患者紹介率・逆紹介率の指標は、地域の医療機関から新患として紹介を受けた患者さんと荻窪病院で急性期の治療を終えた方、より高度で専門的な検査や治療が必要な患者さんを他院に紹介した比率を示しています。

政府は平成 26 年に可決された医療介護総合確保推進法により予測される医療需要に応じて医療圏ごとの病床の機能調整と配置に取り組んでおり、今後数年間で各医療機関はその機能が特定されます。日々の日常的な診察や疾患相談については地域のかかりつけ医が受け持ち、荻窪病院のような急性期病院は急患やかかりつけ医から紹介を受けた患者の治療を担う事となります。

そのためには医療機関同士が連携しそれぞれの役割を最大化する事が必要です。荻窪病院では地域連携室が業務の中心を担い 2015 年度は荻窪病院から他院へ患者を紹介する逆紹介の推進に取り組んだ結果、逆紹介率は 2014 年度より 10.9%増加致しました。

各診療科と開業医、地域医療機関の先生方と開催する「荻窪カンファレンス」と地域住民の方の健康増進と啓発を目的とした「みんなの健康講座」を毎年開催しております。2015 年度は「荻窪カンファレンス」を 12 回、「みんなの健康講座」を 5 回開催致しました。



「みんなの健康講座」

※本指標は地域医療支援病院の認定に必要となる定義式で集計しております。